

平成27年第3回江別市総合教育会議

1 日時 平成27年10月21日（水）午前10時00分～午前10時50分

2 場所 市長公室

3 出席者

（構成員） 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
委員長 支部 英孝
委員 上野 聡志
委員 郷 早見
委員 橋本 幸子
教育長 月田 健二

（事務局） 教育部長 齊藤 俊彦
教育部次長 萬 直樹
教育部学校教育支援室長 伊藤 忠信
教育部総務課長 大村 勇二
教育部総務課参事 錦戸 康成
教育部学校教育支援室学校教育課長 金子 武史
教育部総務課主査 酒井 和恵
教育部総務課総務係長 星野 崇志

4 協議事項

- （1）全国学力・学習状況調査の結果の概要について
- （2）平成28年度教育施策及び予算に関する意見交換について

会 議 録

三好市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、平成27年第3回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の議題は、次第に記載のとおり、全国学力・学習状況調査の結果の概要について及び平成28年度教育施策及び予算に関する意見交換についてでございます。</p> <p>それでは、2の協議事項（1）全国学力・学習状況調査の結果の概要についてを議題といたします。</p> <p>事務局から報告願います。</p>
伊藤教育部学校教育支援室長	<p>平成27年度全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率について、ご説明いたします。</p> <p>全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国学力・学習状況調査に関する実施要領に基づき、小学校6年生と中学校3年生を対象に、児童生徒に対する教科に関する調査及び質問紙調査並びに学校に対する質問紙調査を実施しているもので、今年度は、4月に調査を実施し、8月下旬に文部科学省から調査結果の送付がありました。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>小学校及び中学校の平均正答率について、教科ごとに今回の平均正答率と、括弧内に前年度の平均正答率を、全国、全道、江別市の順に表記しておりますので、ご参照ください。</p> <p>なお、理科は3年に一度の調査となっております。</p> <p>今年度の傾向としましては、1点目に、小中学校ともに、5教科平均が全国・全道平均を上回ったこと。これは、小学校では初めてであります。</p> <p>2点目に、小中学校ともに、国語A・Bと理科は、全国平均を上回ったこと。</p> <p>3点目に、小学校は、算数A・Bが全国平均を僅かに下回ったが、算数Bは前年度と比較して差を縮めたこと。</p> <p>4点目に、中学校は数学A・Bが、前年度は全国平均を上回っていたが、今回は僅かに下回ったという結果になっております。</p> <p>現在、質問紙調査を含めた詳細の分析を行っており、11月頃に分析資料を作成し、公表する予定であります。また、北海道教育委員会からも、同意を得た市町村の結果について、11月頃に市町村ごとの分析資料が公表される予定であります。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告を受けましたが、教育長から来年度に向けた取り組みについて、ご見解をお聞かせいただきたいと思っております。</p>
月田教育長	<p>今ほど、学校教育支援室長から報告がありましたとおり、平均正答率等については判明しておりますが、学習状況調査等の結果を詳細に検討しているところであります。詳細については、後日、分析が終わり次第、定例教育委員会等ですべてを公開したいと考えております。</p> <p>今年度の全国学力・学習状況調査については、新聞報道によりますと、札幌市においても小学校は、すべての調査項目において全国平均を下回ったということですが、江別市が小中学校とも5科目平均で全国を上回ったことは、大変素晴らしいことと思っております。</p> <p>その要因は幾つかありますが、何と言っても最大の要因は、教師が子どもたちのやる気、意欲を引き出してくれていることだと思います。次年度も、このことを一番に考えて指導や支援をしていきたいと思っております。</p> <p>その他にも、子どもたちの意欲を引き出す大きな要因が幾つか考えられます。</p> <p>まず一つ目に、教育委員会が各学校に行っている学力向上ヒアリングがあります。これにより、学校の意識が大きく変わってまいりました。この中で、学習規律の徹底、ノート指導の徹底、挨拶の徹底、チャレンジテストの実施等が挙げられます。学校や教師の意識が変わったのは、全国学力・学習状況調査を行った後、学校による採点を4月時点で行い、分析・検討を加え、自分の学校ではこういうところに力を入れたほうが良いということを実教員が把握していることです。公表される時期は、かなり遅くなってしまうため、それ</p>

<p>三好市長</p>	<p>1ページの総論では、平成28年度の予算編成方針は、えべつ未来づくりビジョンの3年次目として、まちづくりの基本理念に基づき、誰もが暮らしやすいまち、そして住んでみたいと思ってもらえる魅力あるまちを目指して、政策を推進すること。また、江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みを推進するために、この戦略の四つの基本目標を意識し、国の地方創生予算を活用しながら、人口減少社会に対応した事業を推進することなどが述べられております。</p> <p>そのためには、職員が知恵を出し、事業の実施に必要な財源を生み出すことが必要不可欠であり、歳出においては、前年度の金額に捉われず、経費削減により新たな財源確保に努めることとし、歳入においては、国や道のほか各種団体など新たに活用できる補助金などの財源がないかを再度検討の上、予算要求することとされております。</p> <p>1ページの下段から2ページの中ほどにかけては、政策の基本方針と行財政改革の推進について触れております。その下から3ページにかけましては、重点事項として、先ほども申し上げました大きな2本の柱となります、えべつ未来戦略の推進と、まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関する指示事項がそれぞれ記載されております。</p> <p>次の4ページでは、今ほど申し上げた趣旨を踏まえた予算編成の基本方針に関する9項目の指示事項を、5ページの下段から7ページにかけましては、総括事項に関する11項目の指示事項がそれぞれ記載されております。</p> <p>資料についての説明は、以上でございます。</p> <p>ただいま事務局から新年度予算に関する資料の説明を受けましたが、教育委員会におかれましても、例年、江別市教委予算の研修協議会から新年度予算に関しての要望を受けているとのことですので、事務局からその概要について、ご説明をいただきたいと思っております。</p>
<p>斉藤教育部長</p>	<p>私から資料3の平成28年度予算要望重点事項について、ご説明いたします。</p> <p>今回の会議で、来年度の教育施策及び予算に関して意見交換を行うにあたり、学校の現場の教職員やPTAからの要望というものが、どのようなものであるか、その実情を踏まえて、大きな項目での議論を行うのがふさわしいと考えて、市教委予算の研修協議会から市教委に提出された平成28年度教育予算要望書の中の重点事項6項目を取り上げました。1項目ずつ、簡単にご説明いたします。</p> <p>1点目は、冬期間における通学路の車道及び歩道の完全除雪及び排雪で、毎年の継続要望となっております。各学校の通学路の歩道除雪につきましては、教育部総務課から建設部土木事務所に毎年依頼をしておりますが、道幅の関係で歩道の片側しか除雪されない箇所があったり、車道についても、道幅が狭いところでは除雪した雪で両脇が高い雪山となり、見通しが悪いため、横断歩道を渡る児童生徒の安全を考えて、除排雪を徹底してほしいという要望でございます。</p> <p>2点目は、理科教材消耗品のうち、保護者負担に依存しているものがかなり多いので、公費負担で購入してもらいたいという要望ですが、逆に申し上げますと、学校配分予算の管理消耗品費と教材用需用費に占める理科用品の比率がほとんどの学校で、数パーセント以下という実態がありますので、理科教材消耗品費を別枠で予算化してほしいという内容でございます。</p> <p>3点目は、特別支援教育に関して、マンパワーと教材・教具のさらなる充実を要望するものです。教育基本法や学校教育法の改正により、インクルーシブ教育の流れが加速しており、学校では、一人ひとりの教育的ニーズに応じるため、基礎的環境整備の状況を判断し、合理的配慮を決定しています。特別支援教育が本格化した平成19年度には95名だった特別支援学級の在籍児童生徒数は年々増えており、今年度は192名と倍増し、それに伴い、特別支援学級の生活介助員も大幅に増え、現在は28名となっております。また、通常学級における特別支援教育補助員も増員してきており、現在21名おりますが、通常学級で困難を抱える児童生徒が増えており、依然として補助員の増員を希望する学校が多いという実態があります。</p> <p>4点目は、ICT教育環境の整備についてです。昨年度ですべての学級に電子黒板が配備されたことを受けて、電子黒板の使用頻度が32%から59%に大幅に伸びましたが、さらに充実した活用を考えた場合には、デジタル教材や校内LANなどソフト・ハード両面での環境整備を推進してほしいという要望趣旨でございます。特に、デジタル教</p>

	<p>科書については、学校配分予算で購入した学校もあり、デジタル教科書を整備すれば、電子黒板の使用頻度は90%近くにまで伸びるというアンケート調査結果も出ております。しかし、1教科で税抜き7万5,000円前後と大変高価なため、財源との兼ね合いが課題となっております。</p> <p>5点目は、学校教育を推進していく上で、学校・家庭・地域の連携した取り組みが求められる中、その中心的な役割を果たしているのがPTAでございますが、児童生徒数の減少あるいは、それに伴う家庭数の減少により会費収入が減り、連合会組織である市PTA連合会も収入が減少しております。しかし、昨年度から上部団体の負担金が値上げとなったほか、貸切バス運賃の高騰もあり、連合会としては、会員が教育課題解決のための各種研究大会に参加する交通費の助成を十分に行えなくなっていることから、江別市からの助成金を増額してほしいという趣旨の要望でございます。ちなみに、増額要望額は、事業費の削減をしなくても済む最低限の金額として4万円を求めているものでございます。</p> <p>6点目は、新規の要望で、就学援助の補助費目にPTA会費、部活動費、生徒会費の計3費目を追加してほしいという要望です。就学援助は、経済的な理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、就学に必要な援助を行う制度で、世帯の収入状況により、生活保護基準を下回る要保護世帯と、要保護世帯に準じた程度に生活が困窮している準要保護世帯とに分けられ、追加要望の3費目は、平成22年度から要保護世帯の支給対象費目に加えられましたが、準要保護の支給対象費目にはなっていないことから、支給するか否かは、市町村の判断に委ねられているという実情にあります。</p> <p>議会でも何度か取り上げられておりますが、市としては、教育の機会均等を図る制度は本来、国が統一した基準を設けて実施すべきであり、そのことを道教委などを通じて国に要望しているさ中でございますので、当面は動向を注視していくという立場をとっているところでございます。</p> <p>説明は、以上でございます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。今ほど、私から新年度に向けた予算編成の基本方針等を申し上げたほか、事務局からも学校関係団体から要望されている予算の概要についての説明をいただきましたので、これらのことに関しまして、皆様からご意見がありましたら、お聞かせいただきたいと思っております。いかがでしょうか。</p>
橋本委員	<p>冬期間の通学路の車道及び歩道の完全除雪及び排雪についてですが、各学校で見守り隊をつくるなど地域の方々にも協力をお願いしているところです。特に、冬場は寒い中、スコップを持って通学路に立ってもらっております。しかしながら、大雪が降ったときなどは、マンパワーだけでは子どもたちを安全に横断歩道を渡らせるのは限界があります。降雪量は、その年によっても異なりますし、除雪業者にも配慮していただいていると思っておりますが、できれば交差点などは、子どもたちが安全に渡ることができるように、除排雪をしっかりやっていただき、安全確保に努めていただきたいと思っております。</p>
三好市長	<p>私が答えるべきかどうか分かりませんが、除排雪の問題は通学路に限らず、江別市にとって大きな問題だと認識しております。降雪量も、六、七年前と比べて大きく変わってきております。また、業者によっても、規模や技術が異なっておりますので、昨年度から三者懇談会を設けております。これは、自治会、市、業者で構成されております。これまで、このような懇談の場はありませんでしたが、豊幌地区、江別地区、野幌地区、大麻地区で開催しており、できるだけ顔の見える形でやることを考えています。通学路など一番必要な場所を最初にやらせてもらうなど、順位付けについても、7月又は8月くらいから検討を進めております。そういう意味では、少しずつ改善していくのかなと思っております。このほか、土木事務所でも歩道専用のロータリー除雪車を導入するなど、作業時間の短縮にも努めております。</p> <p>交差点の排雪も非常に重要で、できるだけ雪山をつくらないようにする必要があります。特に、車が左折する際に雪山があると、子どもが見えにくくなるので、交差点内に雪を溜めないようにしております。道道は、北海道にお願いしておりますし、国道は、北海道開発局にお願いしております。とりわけ、交差点の排雪を重点的にお願いしております。ただ、その時どきの天候にもよりますし、必ずしも現状で十分とは言えませんが、通学路</p>

	<p>の安全対策にはできる限り努めておりますので、よろしく願いいたします。</p>
橋本委員	<p>ありがとうございます。</p>
三好市長	<p>その他は、いかがでしょうか。</p>
上野委員	<p>私からは、江別市PTA連合会事業への助成についての要望です。私は、小学校・中学校・高校で、合わせて16年間、PTAの活動に関わってきております。この間、江別市PTA連合会だけでなく、石狩管内や北海道のPTA活動にも関わってきました。</p> <p>新年度予算は、税収不足などもあって、江別市の財政状況が非常に厳しいことは、理解しております。</p> <p>PTAについても、少子化に伴う会員数の減少が著しくなっております。そのような中で、数年前に、北海道PTA連合会では会費を1会員当たり80円ないし100円程度の値上げを行っておりますし、石狩管内のPTA連合会でも昨年度、十数円の値上げを行っております。また、江別市PTA連合会でも、今年度の一斉値上げは難しいということから、平成28年度に値上げをすると聞いております。</p> <p>しかしながら、値上げをしても会員数が減り続けていることから、値上げ分だけでは追いつかないという状況です。例年、全道のPTAの大会がございます。札幌市PTA協議会と北海道PTA連合会で4年に1回、札幌市で大会を開催し、残りの3年は道内の主要都市で開催しております。大会には、素晴らしい講師をお招きしております。幾つかの分科会に分かれて、学校、子育て、地域との連携について議論を深めております。これは、大変有意義なことです。できることなら、PTAの会員になっている保護者の方に、1人でも多く参加していただきたいとかねてより思っております。</p> <p>先ほど、教育部長からも貸切バスについて説明がありましたが、教育委員会でも地元のバス会社の協力もあり、各種の事業を行っていると思います。ここ、一、二年で貸切バスの料金が大幅に値上がりしておりますことから、PTAの活動においても、財政的に非常に厳しくなっております。今年度は、全道のPTA大会が札幌市で開催されたこともあって、交通費の支出分はそれほど影響を受けませんでした。聞くところによると、来年度は帯広市で開催されることになりそうなので、交通費の支出が増えることが想定されます。こうしたことから、保護者の方々には、ぜひ学校や子育てに関する多くのことを学んでいただきたいと思っております。それほど大きな金額ではありませんので、できれば補助金額をアップしていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
三好市長	<p>先ほどの江別市教委予算の研修協議会からの要望とは別に、総合教育会議の中でも教育委員会としてPTAに関する予算の増額要望をしたいということですね。</p>
月田教育長	<p>はい。</p>
三好市長	<p>教育委員会の全体予算の中で、改めて議論されると思いますので、実態を十分に踏まえた上で対処したいと思います。</p> <p>その他は、いかがでしょうか。</p>
支部委員長	<p>先ほど、教育部長からも説明がありましたICT教育の充実について、要望したいと思っております。当市は、小中学校の全学級に電子黒板が配備されており、子どもたちの学習環境が整っていると感じております。</p> <p>また、先ほどの説明では、デジタル教科書は、1教科で税抜き7万5,000円程度ということですので、かなり高額なものとなっているようですが、何とかこういった教材を導入してほしいなと強く思うところです。</p> <p>一つ前の議題で、全国学力・学習状況調査の結果報告がありましたが、当市はICTの整備が進んでいることも、学力が高い要因の一つになっているのではないのでしょうか。また、教える側の教師も非常にやる気をもって取り組まれているのではないかと思います。せっかく電子黒板が整備されておりますので、それに魂を入れるといいですか、ハードを有効に活用できるソフトとして教材を充実させていく必要があると思っております。そうするこ</p>

	とで、授業もより分かりやすいものになるでしょうし、将来的には、学校の授業と同様に家庭においても、既存の教科書の代わりにパソコンの画面を見ながら勉強できるような環境になっていくのではないかと考えております。ぜひ江別市の教育環境を、そのような形で発展させてほしいと考えておりますので、さらなるICT環境の整備を進めていただけますよう、ご検討いただきたいと思います。よろしく願いいたします。
三好市長	確認させていただきたいことがあるので、お聞きしたいと思います。1教科で7万5,000円という金額ですが、例えば算数の教材だとすると、1年生から6年生まであって、そのうち各学年の1クラス分だけで、7万5,000円ということでしょうか。
斉藤教育部長	1クラス分ということではなく、学年ごとになります。
三好市長	ソフト1セットが、7万5,000円ということですか。
斉藤教育部長	そのとおりです。
三好市長	そうすると、1学年に3クラスあるとすると、3クラスに共通で使えるということですか。
斉藤教育部長	共通で使うことができます。
三好市長	学年ごとに、国語、数学など教科分が必要になるということですね。例えば、江別小学校と江別第三小学校で教材が必要だとすると、学校間で共有せずに、それぞれの学校ごとで1セット分の教材が必要だということでしょうか。
斉藤教育部長	そのとおりです。
三好市長	市内の全学校で使えるのではなく、学校単位で1セットということですね。
斉藤教育部長	はい。
支部委員長	おそらく、ソフトの著作権があるからではないでしょうか。そのような理由で、学年ごとで1セットということではないかと思えます。
斉藤教育部長	主体となっているのは、ソフトを開発する側の権利保護だと思います。
三好市長	計算すると、市全体でどのくらいの額になるのでしょうか。
斉藤教育部長	申し訳ありません。計算しておりません。最近、非常に優れたソフトが開発されておりますので、取り入れている自治体も増えてきているようです。近隣では、今年度予算で千歳市が小学校にデジタル教科書を導入しております。
三好市長	それは、毎年でしょうか。教科書は、毎年変わっていますね。
斉藤教育部長	教科書は、4年に1回変わるので、4年間は同じものを使うことになります。
三好市長	ゆくゆくは、デジタル教科書が普及していくのかもしれませんがね。そうなれば、電子黒板の使用率が90%程度になるのでしょうか。
斉藤教育部長	アンケート調査によると、そのような結果が出ております。
三好市長	10%の差は何でしょうか。

齊藤教育部長	そこまで細かく分析できません。
三好市長	<p>ICT化は、これからの大きな課題ですので、一つひとつ積み上げて整備していかなければならないと思います。家庭で自習や復習することが必要だと、私も常々申し上げております。やはり、その日に学んだことを翌日に積み残さないことが重要です。私は、その日のうちに解決できるかできないかが、基礎学力が上がるか否かの一つのバロメーターになるのではないかと考えております。そこを、教育政策として押えなければならぬと思います。各家庭に教員がいるわけではありませぬので、それをカバーするのは、ICTの力ではないかと思っております。できる限り、文明の力を活用できるようにしたいと思っております。</p> <p>先ほど、教育長からもお話がありましたが、電子黒板も学力向上の一つのツールになっているということです。学力向上のために、江別市で子どもを学ばせようという親が増えてきますと、さらにICT環境の整備が必要になると思っております。ただ、いかんせん予算の制約がありますので、これについても市全体の予算編成の中で議論させていただきたいと思っております。</p> <p>その他は、いかがでしょうか。</p>
郷委員	<p>私からは、特別支援教育の充実について要望いたします。最近では特別支援教育が重要視されており、数年前と比べると、特別支援学級に通う子どもの数が増えています。私は、幼児教育に携わる職に就いておりますが、就学に関することで不安を抱える保護者も多く見受けられます。保護者からの教育的ニーズを考慮すると、今後も継続して特別支援教育を充実させてほしいと思っております。子ども一人ひとりを見ても、支援の内容が異なりますので、個別の支援対応が必要になってきます。そうしたことを考えますと、マンパワーとして生活補助員や学習支援員をもう少し増やしていくことが必要だと思います。</p> <p>教育に関しては様々な面で、予算措置が必要になってきますが、やはり人的配慮がこれからも不可欠となりますので、充実させていただきたいと思っております。</p>
三好市長	<p>早くから訓練をすると、子どもの適応能力もかなり高くなると聞いておりますので、対応が必要だと考えております。その子だけではなく、周りの子どもたちにも影響しますので、そういう面からも特別支援を必要とする子どもたちへの対応をこれからも続けていかなければならないと考えております。</p> <p>それともう一つは、所得の低い家庭の子どもたちにどのように対応していくかということです。いろいろな考え方がありますので、方程式のような形にはなりません、就学支援をどうしていくかもこれからの課題だと考えておりますので、全体の予算編成の中で改めて議論していきたいと思っております。</p>
郷委員	ありがとうございます。
三好市長	その他は、いかがでしょうか。
月田教育長	<p>最後に、私からも意見を述べさせていただきたいと思っております。教育予算につきましては、これまでも江別市教委予算の研修協議会や、各学校からの日常的な意見などを通じて、教育現場のニーズや現状を把握するとともに、教育部が財政所管部局からヒアリングを受けることによりまして、適切な予算措置につながるよう努めてまいりました。</p> <p>特に、今年度の大きな予算関係では、江別太小学校や江別第一中学校の校舎改築に関わるものがあります。両校とも校舎改築の目玉を考え、それを生かさせていただきました。</p> <p>江別太小学校では、図書室に情報図書館の分館機能を設け、地域の方々にも利用していただけるようにいたしました。また、図書室は、非常に広く、天井も高く、高い窓からの自然採光が素晴らしくなっております。さらに、音楽室が非常に広く、音響効果も抜群で、出し入れできる階段状のステージも備えております。このほか、各階の廊下に用意された広場は、習熟度別指導等にも使用されており、大変素晴らしいものとなっております。</p> <p>江別第一中学校では、教室4室分もあろうかという多目的ホールができました。剣道などの武道や吹奏楽の練習、合唱の練習場所には最適となっております。</p>

	<p>生徒玄関に続く広いアトリウムを造り、明るい交流スペースを設置していただきました。ここでも、合唱の練習や学年集会などができます。</p> <p>特別教室は、それぞれ近代化されており、準備室も大きくっております。</p> <p>そして、これから建築される江別第一小学校ですが、校舎の設計段階から放課後児童クラブを校舎内に設置しようと考えております。さらに、ICT教育全般の試行校にしてはどうかと考えているところです。ICTを広く利用した教育は、いずれ日本中に広まると考えられます。まず、その利用効果を検証しなければなりません。それを江別第一小学校に託してはどうかと考えております。そこで、タブレット端末等の導入をお願いしたいと考えております。</p> <p>今後も、教育現場の教職員の声に耳を傾け、総合教育会議の場をお借りしながら、予算編成権をお持ちになる市長に、教育現場のニーズや現状を伝えていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。教育委員会の皆様のご意見をそれぞれ聞かせていただきました。</p> <p>今後、教育委員会の中で、まずは予算に関する議論をされると思います。その後になりますが、私のほうで吟味して必要な予算を措置してまいりたいと思います。</p> <p>先ほどもお話し申し上げましたとおり、人口が減少していく中であって、江別市を魅力あるまちにしていかなければなりません。現状を分析しますと、江別市で子育てをしようと考えている方が増えているという実態があります。それを支援することは、一つの魅力になりますが、これに関連して教育も大切になってきます。ですから、教育の魅力を高めていかにアピールをしていくかということです。これは、私どもの政策になりますが、教育委員会と市長部局が一緒になって様々な政策を展開していかなければならないと思っております。ぜひ教育委員会の皆様のご協力をいただきたいと思っております。</p> <p>以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に、3のその他についてですが、本日、協議した以外のことで、何かご意見等はございませんか。(なし)</p> <p>それでは、私から一点お聞きしたいことがありまして、昨今のマスコミ報道によりますと、運動会や体育の授業中に、子どもたちが骨折など大きなけがをするケースが増えているようです。北海道は、運動会の時期は春となっておりますが、本州などでは秋が多いようです。運動会や体育の授業中に、組み体操でピラミッドをつくって、それが崩れて事故につながっているようです。また、話題にはなっていませんが、実はムカデ競争でも事故が多いと聞いております。このほか、騎馬戦でも事故が多いとのこと。江別市では、運動会や体育の授業でどのようにされているのか、お聞きしたいと思っております。</p>
金子教育部学 校教育支援室 学校教育課長	<p>先だって、マスコミ報道があった後に、北海道教育委員会から調査がありましたので、そのことを踏まえてお話しいたします。江別市では、今年度の小学校の運動会と中学校の体育祭は、すべて終わっておりますが、ピラミッドなどの組み体操は11校が実施しております。昨年度は、14校でしたので、3校減ったこととなります。調査項目の中に、ピラミッドは何段やっているかというものがありました。2校が7段となっております。それが最高でした。大阪府八尾市の中学校では、10段と報道されていましたが、江別市ではそこまでの高さではありませんでした。なお、江別市で組体操をやっているのは、小学校のみです。3校減っておりますので、各学校に聞いてみたところ、やはり安全性の懸念があるということを確認しているとのこと、それを踏まえて、教職員で検討した結果、他の種目に切り替えたとのこと。</p> <p>学校によっては、組み体操ではなくても一つのことを成し遂げたという達成感を得られるものが他にもあるのではないかとということで、ダンスに切り替えたところもありました。このほか、来年度に向けてヨサコイソーランに切り替えられないかと検討している学校もあるようです。ヨサコイソーランについては、小学校の3・4年生でやっているところもありますが、高学年になると、もう少しレベルの高いことに挑戦させたいという思いもあるようですので、組み体操をやめて他の種目に切り替えるかどうかを決めかねているという話を聞きます。ピラミッドを行う場合も、周りに先生がついて、崩れても受け止め</p>

三好市長	<p>られるような万全の安全策をとっているようですが、どうしても段が高くなると、真ん中が崩れた場合、支えきれなくなってしまうので、その辺も検討課題になっていると思います。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ムカデ競争は、やっているのでしょうか。</p>
金子教育部学校教育支援室 学校教育課長	<p>ムカデ競争については、あまり聞いたことがありません。騎馬戦は、多くの学校でやっております。騎馬戦の場合、高さが2段しかないので、崩れても先生がそばにいて押えることができます。ですから、それほど危険性はありません。組み体操は、段が高くなると危なくなるという問題があります。ただ、ピラミッドやタワーをやらないと、子どもたちの達成感が得られないのではないかという課題もあって、決めかねているということです。単純にやめることはできますが、他の種目ではクライマックスを迎える場面がないということもあるようです。</p>
三好市長	<p>組み体操には、ある種の緊張感があるのかもしれませんがね。ムカデ競争は、江別市では昔からあまりやっていなかったのでしょうか。</p>
金子教育部学校教育支援室 学校教育課長	<p>昔からあまり聞いたことがありません。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。学校では十分安全面に配慮されてやっているようですが、引き続き、十分気をつけて取り組まれるよう、お伝えいたしたいと思います。</p> <p>この件で、教育委員会の皆様から何かありませんか。(なし)</p> <p>それでは、次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、来年の春ころの開催を予定しておりますので、事務局を通じてご連絡をさせていただきたいと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。</p>